

平成 28年 6 月期 第 2 四半期 決算説明会



証券コード1382

株式会社 ホーブ

平成28年2月16日



会社概要

■ 会社名	株式会社ホーブ
■ 代表取締役社長	政場 秀
■ 設立	昭和62年6月
■ 本社所在地	北海道上川郡東神楽町
■ 資本金	4億2125万円
■ 発行済株式総数	762,000株
■ 従業員数	62人（連結）38人（個別）
■ 事業所	北海道本社／東京本部／関西事業所
■ 連結子会社	株式会社エス・ロジスティックス 株式会社ホーブ21 株式会社ジャパンポテト



事業内容

事業区分（セグメント）および事業内容

事業区分	事業内容
いちご果実・青果事業 (当社、株式会社ホーブ21)	いちご果実（自社品種・その他いちご）、青果、農業用資材等の仕入販売
種苗事業 (当社)	自社いちご品種、その他種苗の生産と販売
馬鈴薯事業 (株式会社ジャパンポテト)	種馬鈴薯の生産販売及び仕入販売 青果馬鈴薯の仕入販売等
運送事業 (株式会社エス・ロジスティックス)	運送業務

業績の概要



連結業績

(単位:百万円)

	H28/6期 第2四半期	H27/6期 第2四半期	増減額	増減率 (%)
売上高	2,545	2,985	△439	△14.7
売上総利益	477	480	△2	△0.5
営業利益	43	41	2	6.9
経常利益	50	42	7	18.6
四半期純利益	3	26	△22	△85.2



セグメント別売上高

(単位:百万円)

	H28/6期 第2四半期		H27/6期 第2四半期	増減率 (%)
		構成比 (%)		
いちご果実・青果事業	1,771	69.6	2,228	△20.5
種苗事業	9	0.4	10	△12.8
馬鈴薯事業	725	28.5	710	2.2
運送事業	39	1.5	35	9.8
連結	2,545	100.0	2,985	△14.7



セグメント別営業利益

(単位:百万円)

	H28/6期 第2四半期	H27/6期 第2四半期	増減率 (%)
いちご果実・青果事業	74	84	△12.3
種苗事業	0.3	△0.9	—
馬鈴薯事業	54	43	24.3
運送事業	5	6	△6.7
調整額※	△90	△92	—
連結	43	41	6.9

※調整額は主にどの部門にも帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。



個別業績

(単位:百万円)

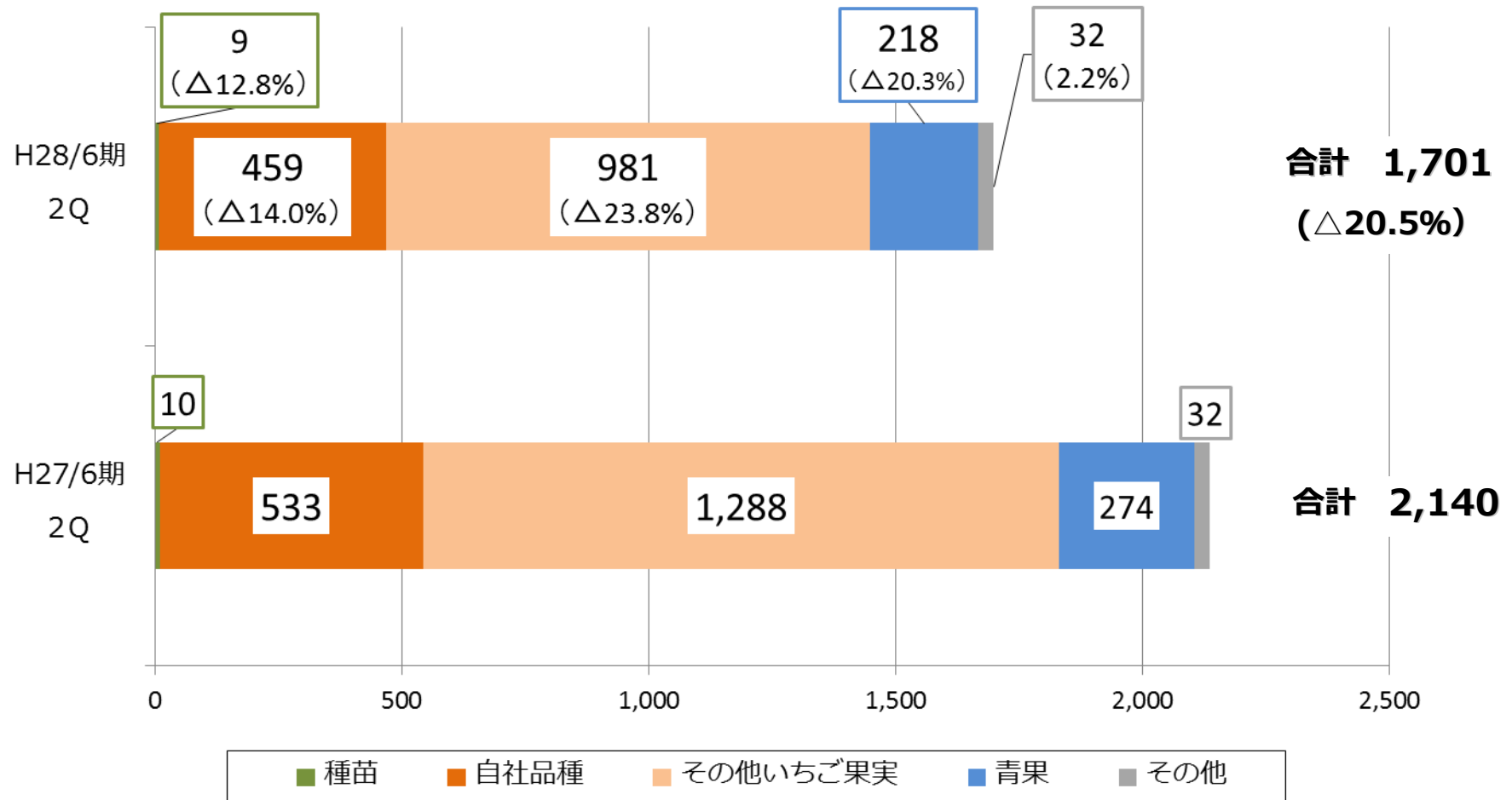
	H28/6期 第2四半期	H27/6期 第2四半期	増減額	増減率 (%)
売上高	1,701	2,140	△438	△20.5
売上総利益	345	352	△7	△2.0
営業利益	△18	△18	0	—
経常利益	10	△9	19	—
四半期純利益	△14	△6	△8	—



個別業績（品目別売上高）

（ ）内は前期比増加率

単位：百万円

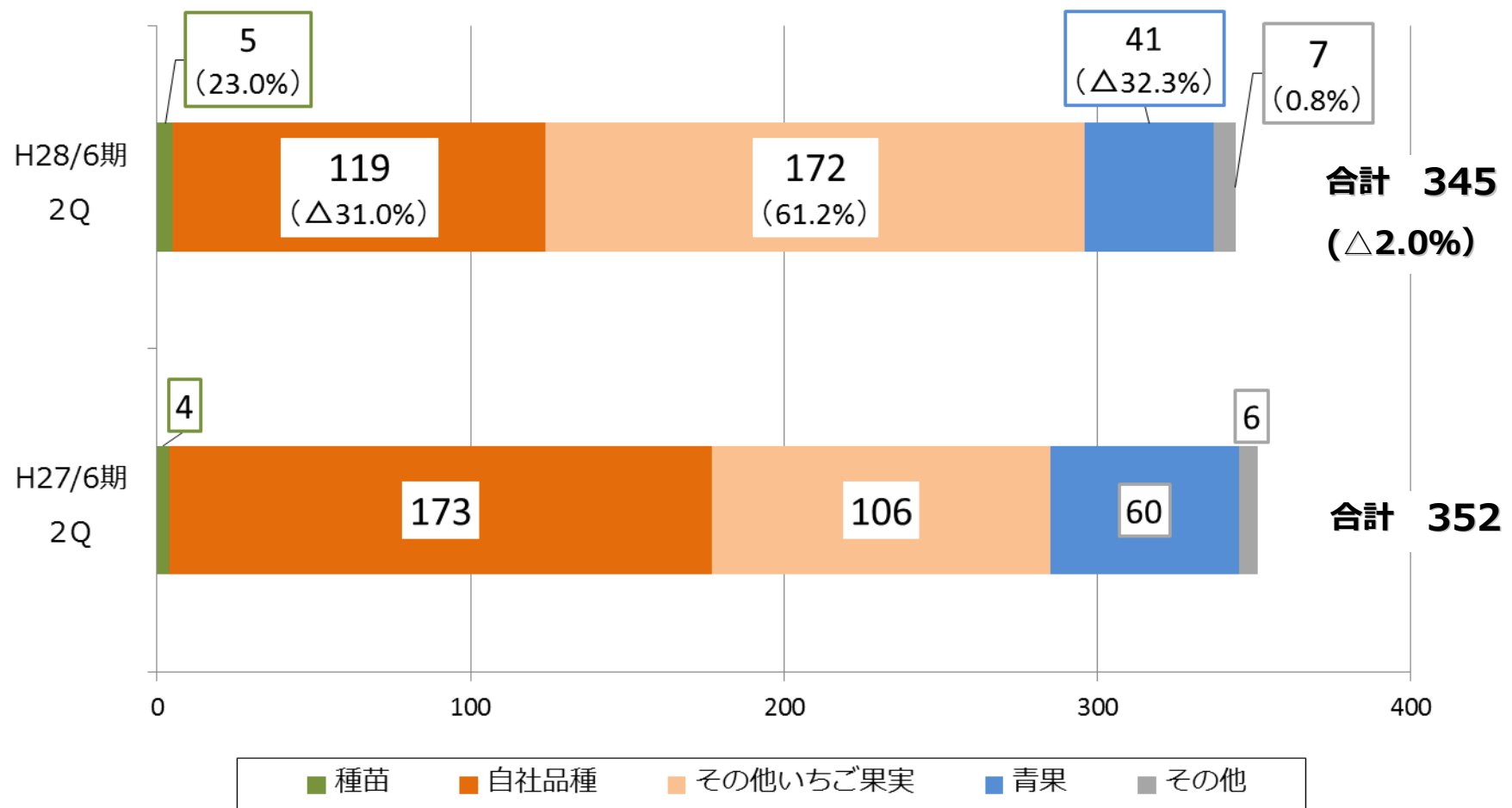




個別業績（品目別総利益）

（ ）内は前期比増加率

単位：百万円

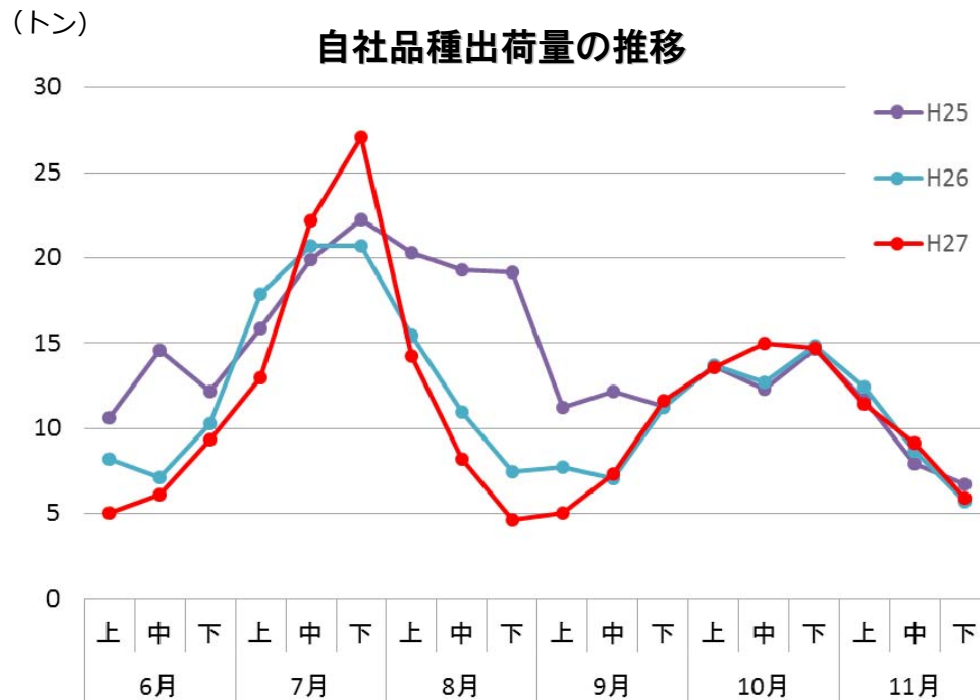


セグメント別の状況

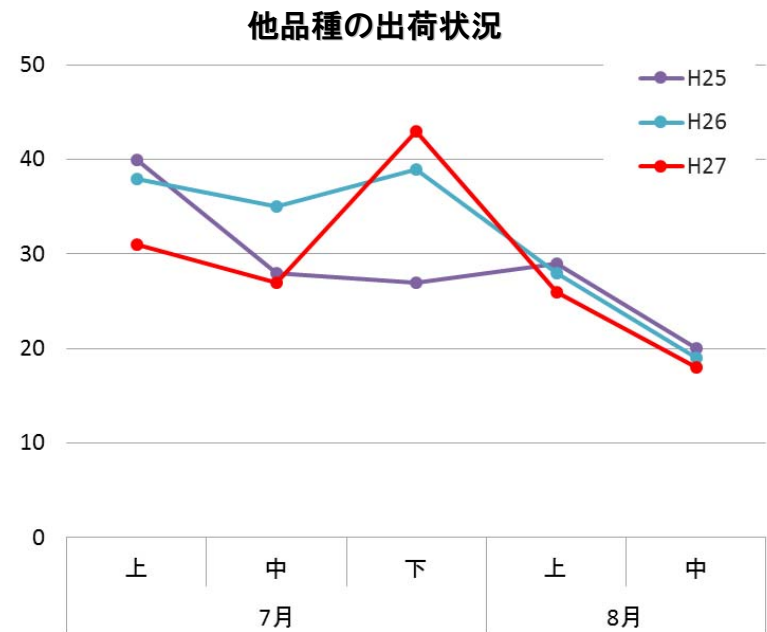


いちご果実・青果事業—自社品種の出荷状況—

- 7月中旬に急な高温条件となったため、出荷量が急増。7月下旬にかけて、想定以上の出荷が続く。他品種も同様の傾向。
- 7月の反動を受け、8月中旬以降は一転して極端な出荷の落ち込みとなる。



※当社出荷データより



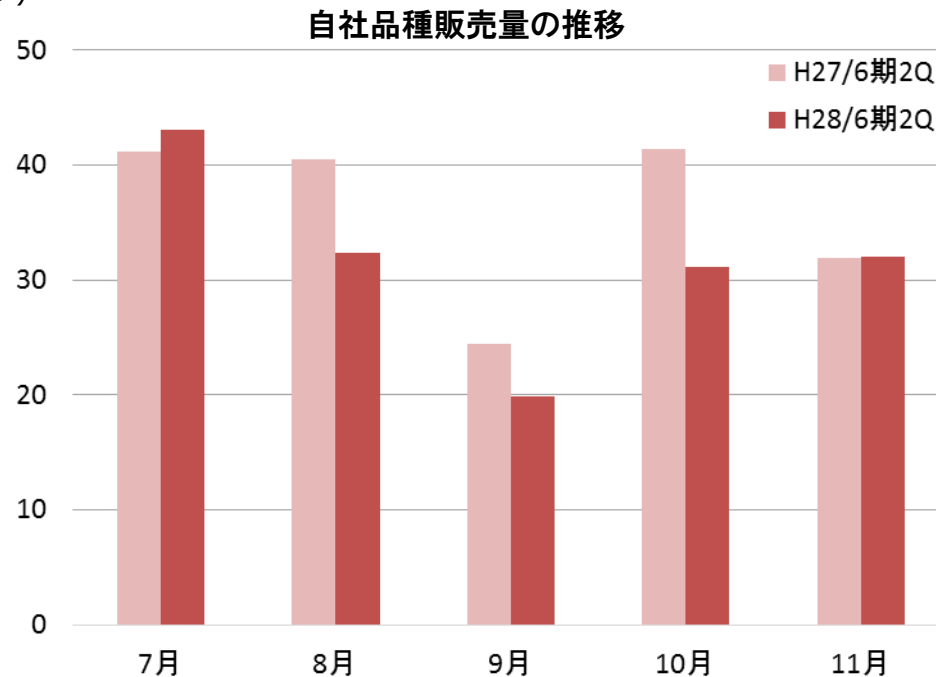
※農林水産省統計データより



いちご果実・青果事業—自社品種の販売状況—

- 輸入いちごに代わり、自社品種を積極的に販売し、7月の販売数量は前年比微増。
- 8月中旬以降の出荷量の落ち込みにより、8,9月の販売数量が減少。
- 10月是他品種の出荷量も回復し、自社品種の販売に苦戦。
結果として、7～11月の販売数量は前年比12%減少。

(トン)



自社品種販売実績

	H27/6期2Q	H28/6期2Q
販売量	179 トン	158 トン
売上高	533百万円	459百万円
総利益	173百万円	119百万円



いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況①—

- 9月の定植後、栃木では大雨による被害が懸念されたが、その後の気象条件に恵まれ、生育は順調。
- 全国的に11, 12月は過去に例のないほどの温暖な環境で推移。

2015年11, 12月平均気温平年差

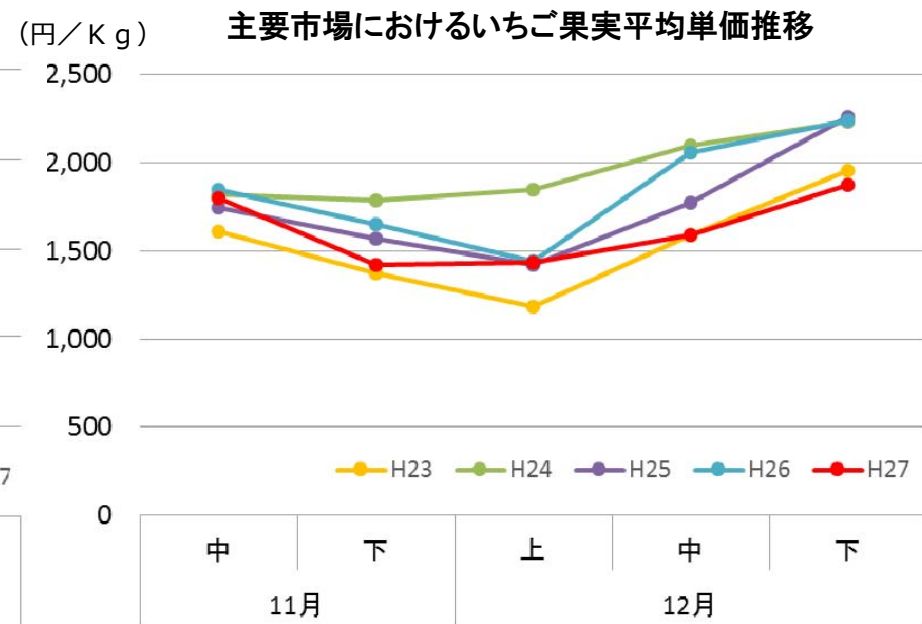
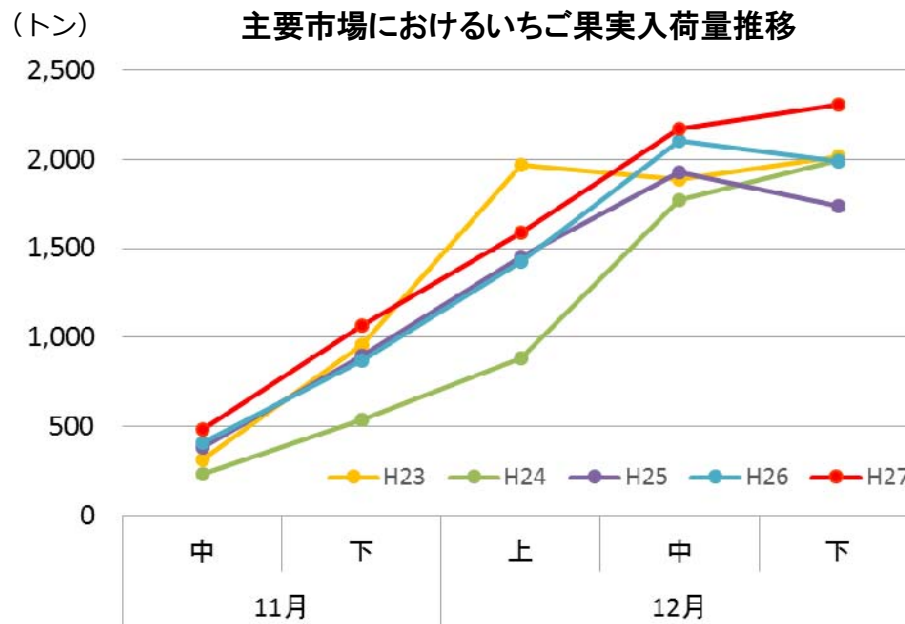


※気象庁統計データより



いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況②—

- 11,12月の気象条件に恵まれ、クリスマスにかけて市場へのいちご入荷量は非常に潤沢。
- 全国的に入荷量が潤沢で、いちご果実平均単価は例年になく安値となる。



※農林水産省統計データより

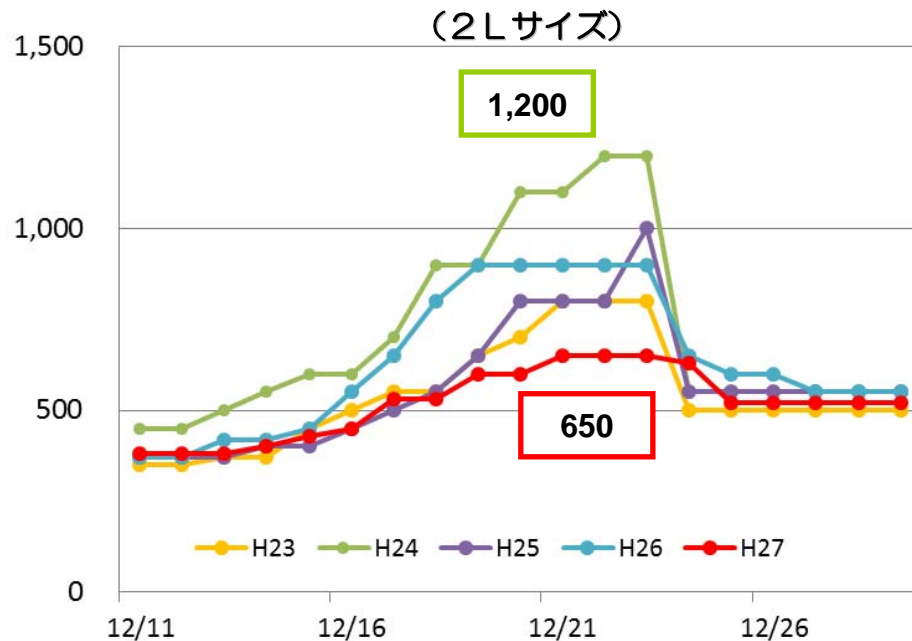


いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況③—

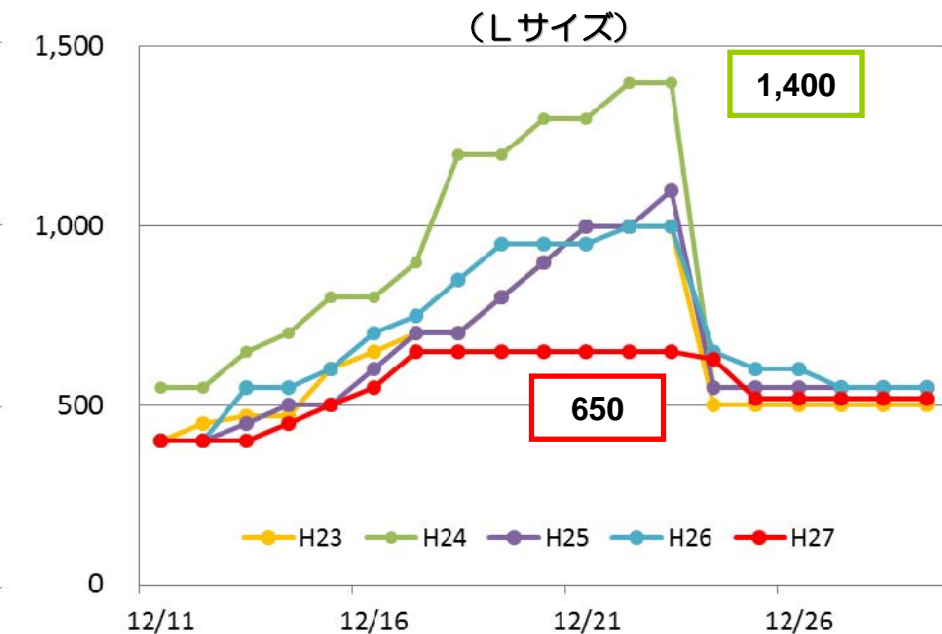
- 大田市場での相場価格も過去に例のないほどの安値傾向となる。
- 相場価格低迷により顧客への販売単価も低下。12月の売上高は前年比19%減少。
- 仕入価格が抑制されたため、固定価格での販売先に対しては利益を確保。

大田市場におけるいちご市場相場価格推移(過去5年比較)

(円/パック)



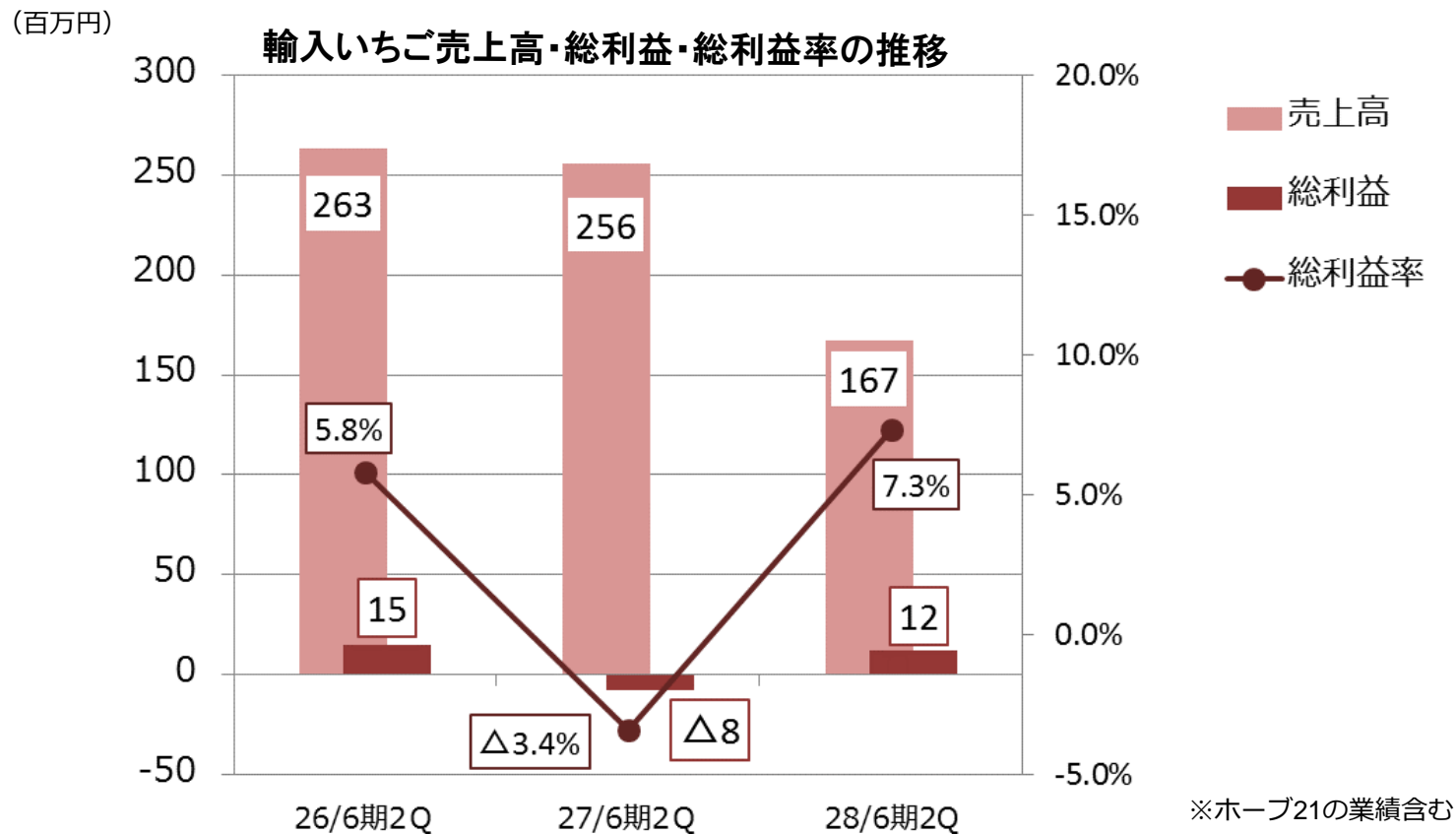
(円/パック)





いちご果実・青果事業—輸入いちご販売状況—

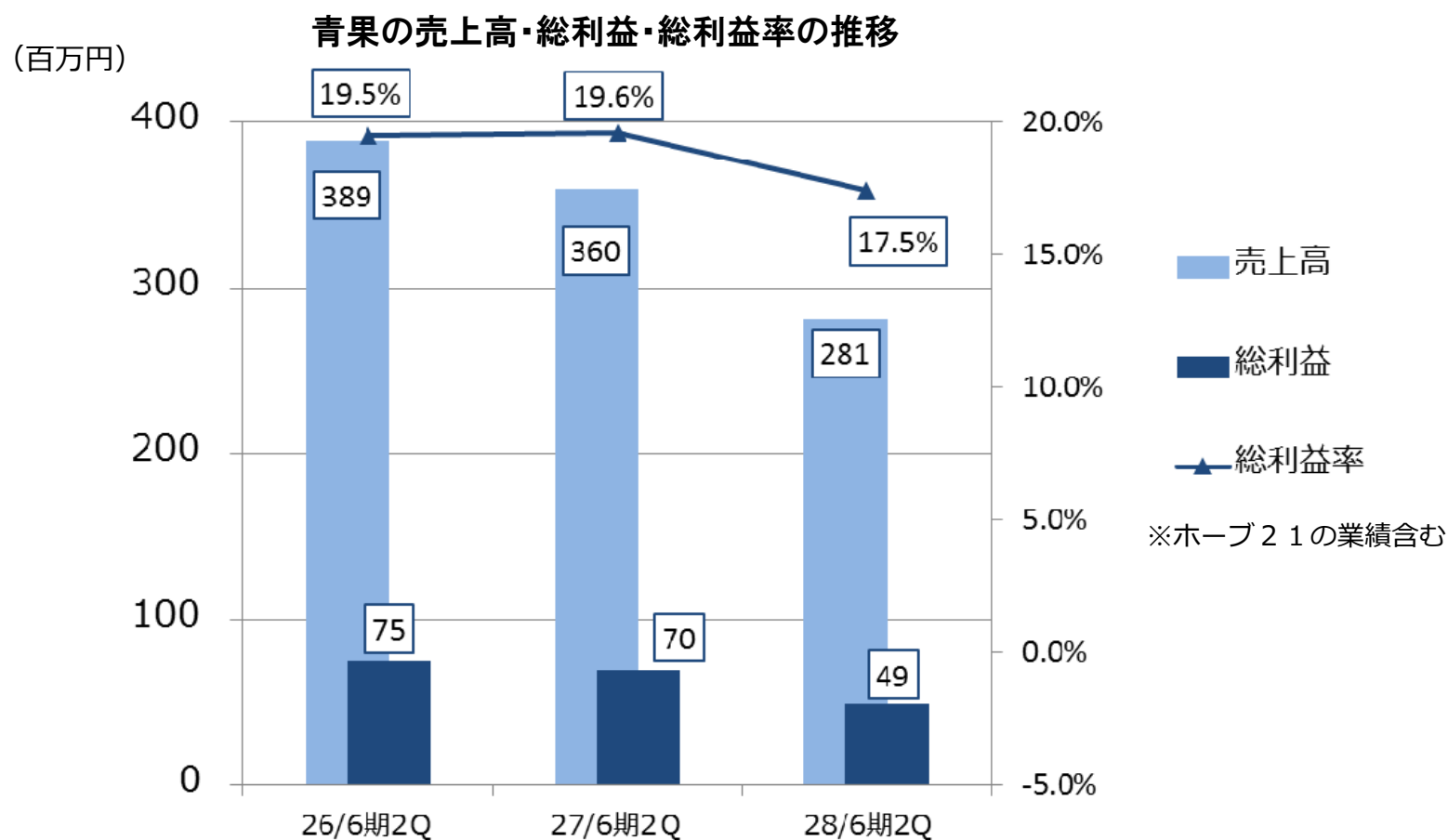
- 自社品種を優先して販売したため、取扱量が減少。
- 円安による仕入価格上昇分を販売価格に転嫁したことで総利益、利益率は改善。





いちご果実・青果事業—その他青果の販売状況—

- 大手取引先の取扱量減少などにより売上高、総利益が減少。
- 円安による仕入原価の上昇もあり、利益率も低下。



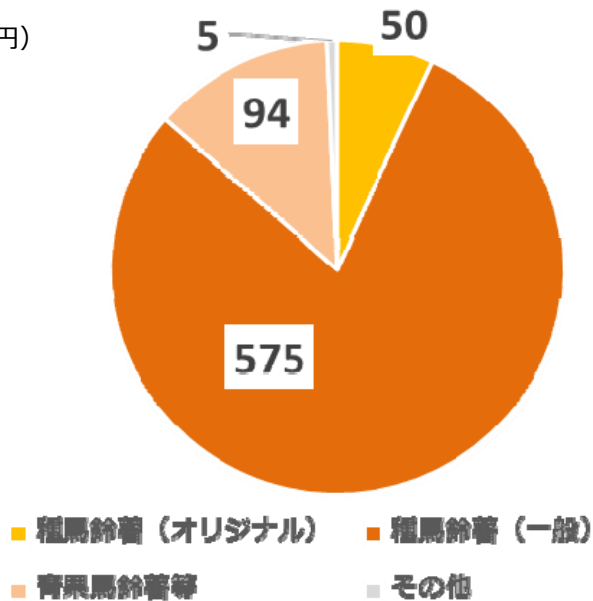


馬鈴薯事業

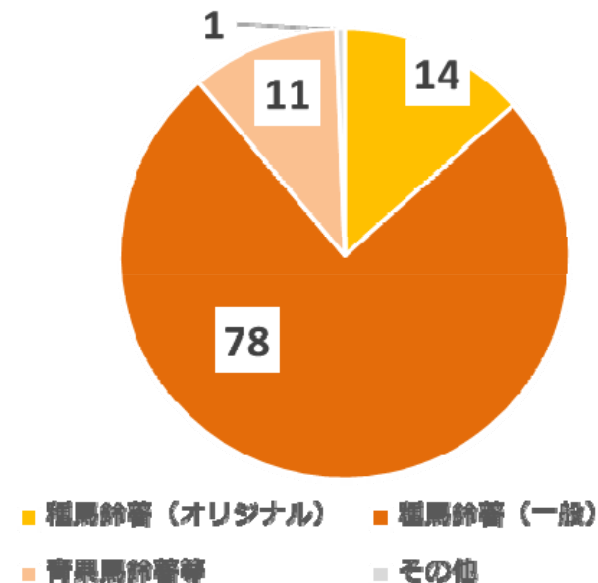
- 売上高の約70%、利益の約80%を種馬鈴薯が占める。
- 種馬鈴薯の販売は春作種馬鈴薯が主体となり、11,12月に販売のピークを迎える。
- 国内販売権を持つ海外オリジナル品種を所有。
一般品種に比べ、取扱量は少ないが利益率が高い。

H28/6期2Q馬鈴薯事業の売上高構成

(単位：百万円)



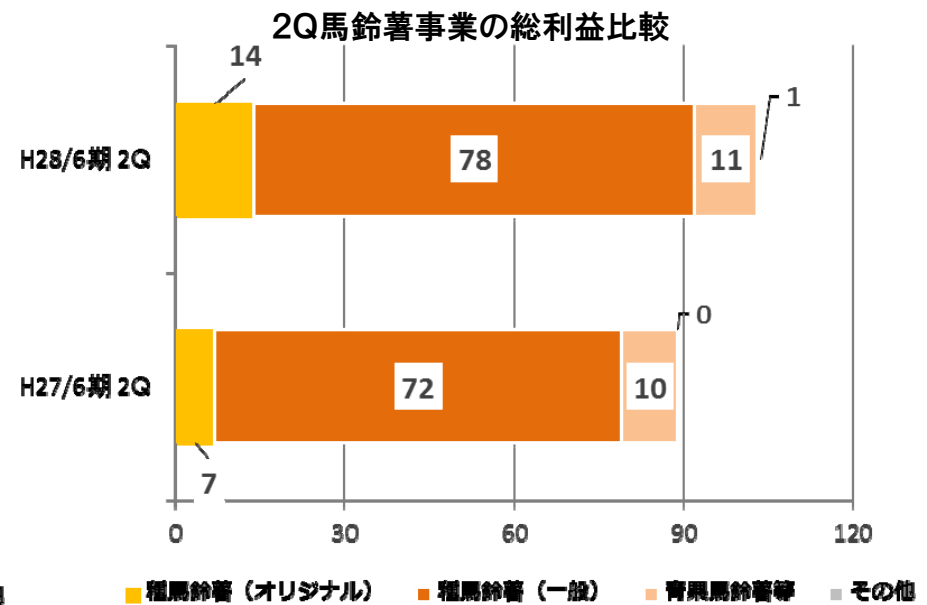
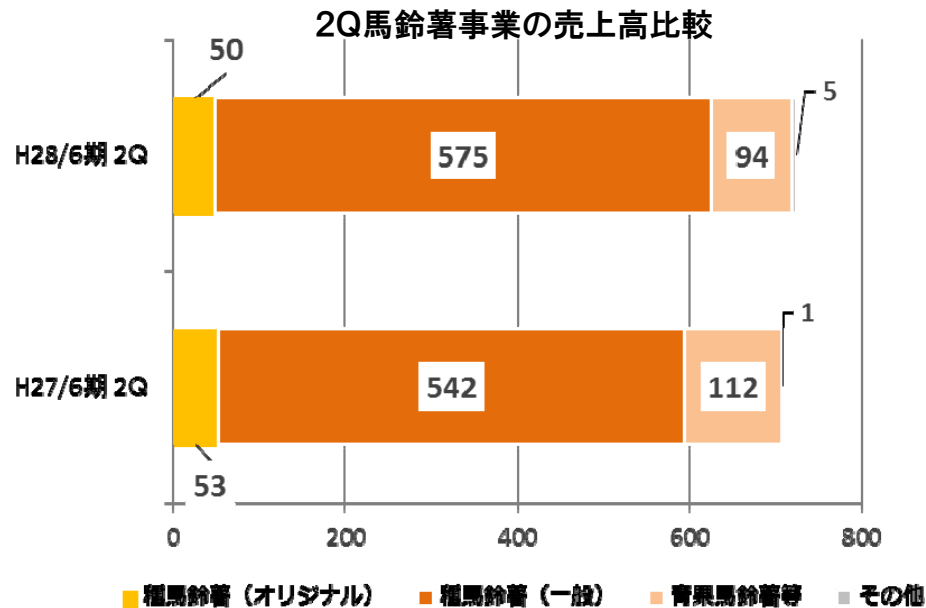
H28/6期2Q馬鈴薯事業の総利益構成



馬鈴薯事業

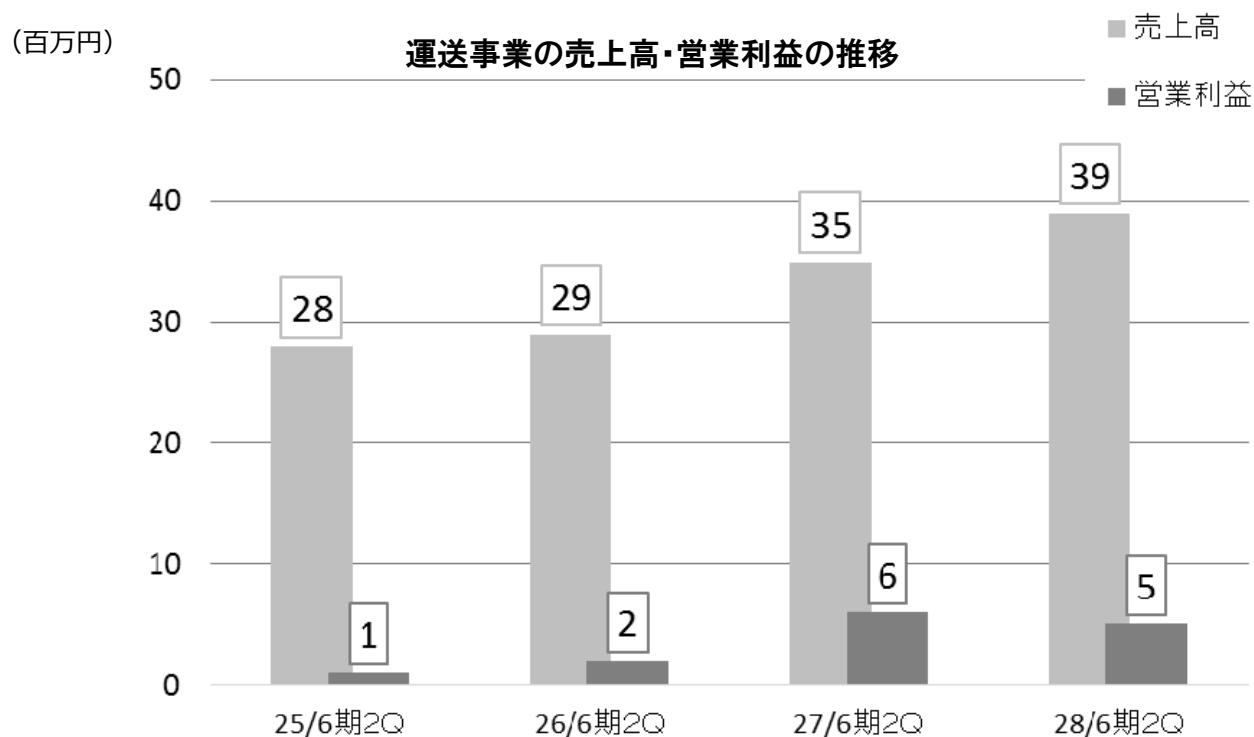
- 種馬鈴薯は一般品種の販売量増加により売上高が増加。
仕入数量・品質の適正管理に努め、利益を確保。
- 青果馬鈴薯等は、加工用販売を推進したことで売上高は減少したが、
出荷経費等の抑制に努め利益は増加。

(単位：百万円)



運送事業

- 一般荷主からの配送業務を積極的に受託し、売上高は前年比9.8%増加。
- 予定外の車両修理費用が発生し、営業利益は前年比微減。



※株式会社エス・ロジスティックスは平成25年12月19日付で、国土交通省指定の全国貨物自動車運送適正化事業実施機関より「安全性優良事業所(Gマーク)」の認定を受けております。



平成28年6月期

連結業績通期の見通し

連結業績通期予想

(単位:百万円)

	H28/6期 通期予想	H27/6期 通期実績	前期比 増減額	前期比 増減率 (%)
売上高	4,614	5,159	△544	△10.6
営業利益	32	33	△1	△3.8
経常利益	39	39	0	1.7
当期純利益	0	24	△24	△98.7

* 上半期の連結業績と下半期の業績見込みを勘案し、当初の通期連結業績予想から予想数値の修正を行っております。



今後の対応

● いちご果実・青果事業の収益向上

夏
秋
期

- ・ 既存取引先への販売強化に加え、新規取引先獲得のための営業推進。
- ・ 生食用、加工用などの新たな販路の開拓。
- ・ 自社品種、他品種、輸入いちごを併用した販売体制の構築、収益の確保。

冬
春
期

- ・ 品質向上に向けた仕入体制の強化。
- ・ いちご市場相場価格を勘案した販売価格の要請を継続。

青
果

- ・ 取扱品目及び取扱量の拡大に向け、ホープ21と連携し、既存取引先に対する提案型営業を推進。新規販売先の開拓。

● 夏秋いちごの新品種展開

- ・ 生食用等、食味の良さを活かした営業展開ができる新品種の導入。
- ・ 促成期との端境期に、集中して収量を上げることができる多収性品種の導入を検討。

● 馬鈴薯事業の拡大

- ・ 利益率の高い海外オリジナル品種の販売強化。
- ・ 種馬鈴薯の仕入について、適正な品質と数量を確保する体制の確立。
- ・ 青果馬鈴薯の新規顧客の開拓を継続。